日本産オナガミヅスマシ屬竝びに1新種、新亞種の記載

神谷一男

ON THE GENUS *ORECTOCHILUS*, WITH DESCRIPTIONS OF A NEW SPECIES AND A NEW SUBSPECIES FROM JAPAN.

By K. KAMIYA.

著者は曩に[1]本屬に就いて記載したところ、早速學兄湯淺啓溫氏より種々御教示を賜り、その後瀧澤求氏は日本産ミヅスマシ科の研究[2]をなされた中に、この屬の1新種を記載された。著者はその後、ドイツの鼓豆學者 OCHS 氏より種々御教示を賜ると共にこの屬の再調査を試みた結果、前記論文に對して訂正をなすの必要を生ずると共に、1新種竝びに新亞種をも發見したるを以つて、こゝに之等を發表すると共に、前記論文の訂正をなし、本邦領土内に産する種類を記錄して置きたいと思ふ。

標本或は文獻に援助を賜りたる OCHS, 江崎悌三博士、湯淺啓溫、寺西暢、瀧澤求、福貴正三等の諸氏に深謝する。

Genus *Orectochilus* LACORD オナガミヅスマシ屬

LACORD, Fr. Ent. Paris I, p. 344 (1835).

1. *Orectochilus agilis* SHARP ツマキリオナガミヅスマシ

Orectochilus agilis SHARP, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 449 (1884)—REGIMBART, Ann. Soc. Ent. Fr. (6) VI, p. 203 (1886)—AHLWARTH, Col. Cat. 21, P. 29 (1910).

紡錘形を呈し、背面隆起し、全體黑色にて頭部は平滑、前背板及び翅鞘には極めて微細の(肉眼には認められない)點刻を密布し、淡黃褐色の短毛を密生する。小楯板は平滑にて短毛を缺く。翅鞘の末端は截斷狀に終り、截斷部は幾分彎曲する。

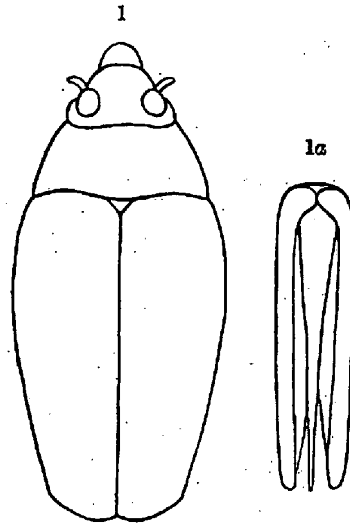
1) 東京蟲乃會研究報告 1, pp. 13-16 (1931).

2) Insecta Matsumurana VI, pp. 13-21 (1931).

雄の Genitalia—Penis は細く、中央より先きは急に細く、先端尖り、左右の附屬器と同長である。

體長: 6.5-7 mm. 體幅: 3 mm. 內外

著者が前記論文に *O. agilis* SHARP として記載せる標本は今回新種として發表する *O. teranishii* なるものにて、當時所謂 *O. agilis* なる標本なく、これを誤認せるものである。最近兵庫縣川邊郡を流るゝ猪名川にて多數採集され、福貴正三氏は100頭以上の標本を著者に贈られた。同地には極めて多數産する如く、秋より冬期にかけて水中の石の下に多數が群棲するとのことである。著者は東京玉川でも採集し、又最近江崎悌三博士より九州福岡産の標本を惠送された。



第 1 圖

1. *Orectochilus agilis* SHARP
1a. 同雄の Genitalia

分布——本州、九州。

2. *Orectochilus corniger* ZAITZEV.

Orectochilus corniger ZAITZEV, Rev. Russ. Ent. X, p. 244 (1910)—ZIMMERMANN, Ent. Mitt. VI, p. 168 (1917)—PESCHET, Opusc. Inst. Sc. Saigon I, pp. 11-12 (1923)—OCHS, Suppl. Ent. XV, p. 117, 122 (1927); Ent. Blätter XXIV, p. 101 (1928); Ann. Mus. Zool. de l'Acad, USSR, XXXI, p. 69 (1930); Tropische Binnengewässer, Band I, XIV, p. 474, 477 (1931).

Orectochilus nipponensis ZAITZEV, Rev. Russ. Ent. X, p. 224 (1910)

ZAITZEV 氏は日本から *O. nipponensis* とは別種として記載されてゐるが、OCHS 氏[3] に從へば右は同種にて、事實日本に産するや否や疑問とされてゐるが、著者は未だ本種を見る機會を得ないので如何とも斷定出來ない。こゝには OCHS 氏に從ふことにした。

分布——Japan (?), Java, Sumatra, India, Borneo, Tonkin. Annam.

3) Ann. Mus. Zool. de l'Acad, USSR. XXXI, p. 70 (1930).

3. *Orectochilus obscuriceps* REGIMBART.

Orectochilus obscuriceps REGIMBART, Ann. Soc. Ent. Fr. LXXVI, p. 215 (1907)—OCHS, Lingnan Science Journal 7, p. 720 (1929); Proceed. U. S. Nat. Mus. 75, 3, p. 4 (1929).

本邦に於ては朝鮮から記錄されてゐるが、著者はまだ本種を見る機會がないので、こゝに記載することは出來ない。

分布——Korea, Manchuria, Central China.

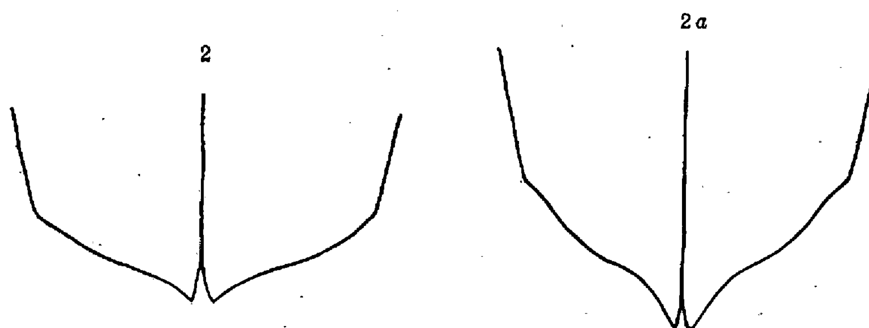
4. *Orectochilus regimbarti* SHARP. オナガミヅスマシ

Orectochilus regimbarti SHARP, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 448 (1884)—REGIMBART, Ann. Soc. Ent. Fr. (6) VI, p. 264, t. 4, f. 13 u 13 a (1886)—MATSUMURA, Thous. Ins. Japan, III, p. 31 (1906); Konchu-Bunruigaku II, p. 221 (1915); Cat. Ins. Japan II, pp. 54-55 (1915)—YOKOYAMA, Beetles of Japan I, p. 138, pl. XVIII, 13 (1930)—KAMIYA, Mushinokai Kenkyuhokoku 1, p. 15 (1931)—TAKIZAWA, Ins. Matsu. VI, p. 20 (1931)—MATSUMURA, Illustrated Insects of Japan-Empire p. 124, f. 128 (1931).

分布——本州。

4a. *Orectochilus regimbarti* SHARP *odaiensis* subsp. nov.

Typical specimen との差異は、體は大きく、上唇も稍々大形にて前方へ突出する。頭楯は前緣少しく彎入し、觸角は赤黑色、翅鞘の末端は後方へ突出すること多く、雌に於て特に著しい。雄の Genitalia の先端は細く尖り、左右の附屬器より微かに長い。



第 2 圖

2. *Orectochilus regimbarti* SHARP (♀) の翅鞘末端
2a. *Orectochilus regimbarti odaiensis* KAMIYA (♀) の翅鞘末端

體長：　9.5–10 mm.　　體幅：　4–4.5 mm.

分布——本州。

紀州大臺ヶ原入ノ波（シホノハ）に於て、1932年7月寺西暢、瀧口浩兩氏に依つて多數採集された。

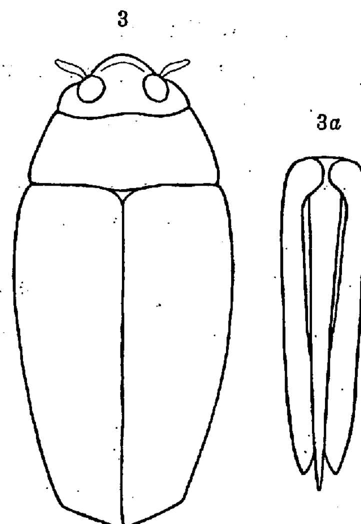
5. *Orectochilus teranishii* sp. nov.　**テラニシオナガミヅスマシ**（新稱）

體の表面は黑色にて稍々紫色の光澤がある。頭部は平滑、複眼の外側に淡黄色の短毛を生じ、上唇は半圓形にて小點刻を裝ひ、上面には淡黃色の短毛、前緣には黃色の長毛を生じ、觸角は黑色にて先端は黃褐色、兩鬚は黃褐色である。前背板は矩形にて中央より左右兩側の幅廣く、微細の點刻を裝ひ、淡黃色の短毛を密生する。小楯板は三角形、平滑、黑褐色にて光澤あり、翅鞘は黑色にて先端に近く暗赤褐色、前緣は少しく反轉し黃褐色、翅端は截斷狀に終り、雄の截斷部は稍々彎曲し、雌は殆んど直線にて翅端は稍々突出する。腹面及び前脚は暗赤褐色にて光澤あり、中後兩脚は黃褐色である。

雄の Genitalia——黃褐色、Penis は細く、兩側の附屬器より長い。

體長：　7–7.5 mm.

體幅：　3.5 mm. 內外。



第　3　圖

3. *Orectochilus teranishii* Kamiya

3a. 同雄の Genitalia

著者が前に *Orectochilus agilis* Sharp として誤記した標本は本種にて、寺西暢氏は1920年5月、東京郊外玉川にて10數頭を採集され、その標本全部著者に寄贈され、現在著者が所藏してゐる。

分布——本州。

6. *Orectochilus formosanus* Takizawa.　**タイワンオナガミヅスマシ**

Orectochilus formosanus Takizawa, Ins. Matsu. VI, pp. 19–20 (1931)

本種は次に記載する *Orectochilus punctipennis* Sharp に極めて酷似するもの

である。瀧澤氏は鹿野氏が臺灣大トン山にて採集された1雄の標本にて記載された。著者も亦鹿野氏が同時に採集された標本を數頭寄贈され、これに就いて調查するに、外觀上は勿論雄の Genitalia でも殆んど區別出來ない位酷似してゐる。

分布——臺灣。

7. *Orectochilus punctipennis* SHARP. コオナガミヅスマシ

Orectochilus punctipennis SHARP, Tran. Ent. Soc. Lond., p. 449 (1884)—REGIMBART, Ann. Soc. Ent. Fr. (6) VI, p. 264 (1886); l.c. LX, p. 708 (1891); Not. Leyd. Mus. IX, p. 246 (1887)—OCHS, Ent. Nachrichtsblatt III, 2, p. 47 (1929)—KAMIYA, Mushinokai Kenkyuhokoku 1, p. 16 (1931)—TAKIZAWA, Ins. Matsu. VI, p. 20 (1931)—MATSUMURA, Illustrated Insects of Japan-Empire p. 124, f. 127 (1931).

本種は OCHS 氏に從へば、前記 *Orectochilus formosanus* TAKIZAWA と共に、歐洲から西比利亞にかけて廣く分布する *Orectochilus villosus* MÜLLER に極めて酷似し、獨立種とすべき差異を認められないと云ふ意見である。著者は未だ *Orectochilus villosus* MÜLLER の標本を觀る機會がないので、これに就いては暫らく保留する。

分布——本州、九州。

著者の所藏する標本の產地は福島縣五百川（鹿野氏採集）及び兵庫縣猪名川（福貴氏採集）で、猪名川に於ては *Orectochilus agilis* SHARP と同時に採集されたもので、前者に比較すれば極めて少數で、福貴氏採集標本百頭以上の中に雌2頭、雄1頭が混同してゐた。